講義⑧・ワークショップ
「地域とつながる身近な工夫
ー図書館 100 連発ー」
講師：アカデミック・リソース・
ガイド株式会社
代表取締役／プロデューサー
岡本　真

講義

1. 自己紹介

1973 年生まれ。1997 年、国際基督教大学（ICU）卒業後、編集者を経て、1999 年よりヤフー株式会社に入社。インターネットのサービスを作るプロデュサーとしておよそ 10 年間勤務する。中でも“Yahoo！知恵袋”は、図書館のレファレンスサービスに触発され、意識して作ったサービスである。

2009 年「アカデミック・リソース・ガイド株式会社」(現在スタッフ６名）を設立。1998 年に始めた、メールマガジン「ACADEMIC RESOURCE GUIDE（ARG)」を母体とし、インターネットサービスの企画・開発・運用、地域社会の活性化に関わるコンサルティングなどの事業を行っている。また、図書館専門誌「ライブラリー・リソース・ガイド(LRG)」(季刊）を発行している。

ほかに、オーマ株式会社（東大発のベンチャー企業。「あのひと検索スパイシー」、現在は分社化した「クラウドファンディング READYFOR？」の運営を行う）の代表取締役、東日本大震災から始まった seveMILAK プロジェクトという被災した図書館を支援する活動、毎年 11 月に行われる図書館総合展の運営委員、ＮＰＯの理事、アドバイザーなど勤めている。

皆さんに直接関わる事業としては、図書館を作る（図書館建設に際し、建築家、自治体とプロジェクトチームを作り、全体をリードする。）仕事がある。

実際に、図書館建設に関わってみると、いろいろな課題が見えてくる。

例えば、行政職員が少なすぎる。全国の自治体の半数以上において、非正規雇用職員が過半数を占めている。かつ、ベテラン職員が退職していくため、以前に公共施設整備事業に携わった経験のある職員がほとんどいない。これは、人口１０万人以下の自治体に顕著に表れている。その結果、ノウハウがない、あっても人員を割くことができない状況が出てきた。そのため、民間のコンサルティングが用立てられることが増えてきている。

（講義中の岡本講師）

2. これまでに関わった主な図書館プロジェクト

図書館つくる仕事というのは、10 年 20 年仕事。当社（設立７年目）が関わる段階からでも５年くらいはかかる。今年あたりからようやく手掛けた図書館が世の中に出るようになった。富山市立図書館新本館（8 月)、恩納村文化情報センター（4 月)、日出町立図書館（7 月）がオープンした。現在進行中としては、瀬戸内市、須賀川市、名取市、気仙沼市、沖縄市の新図書館建設の仕事をしている。

富山市新図書館は、総工費約 200 億円の豪華な建物(普通は、市立図書館で 20～30 億円)。隈研吾氏による作品で、1Ｆ銀行、2Ｆカフェとショップ、3～6Ｆが図書館とガラス工芸の美術館、7～10Ｆが銀行となっている。北陸新幹線開通を見越しての街づくりをしている。その中でも象徴的なのは、図書館つくることで、今後の観光誘客の大きな起爆剤になることが期待されている。平日は 3000 人くらい、休日は 5000～8000 人が訪れている。おそらく年間 100 万人は訪れる施設になるのではないかと思う。

現在の名取市の図書館は、被災したため木造２棟の仮設図書館が建っている。これは、仕事としてではなくボランティアとして造ったもので、建設費（1 億円）を出しくれる人を探し（ユニセフ、カナダ政府)、ほぼノーギャラで設計してくれる建築家を探した。

恩納村は、１Ｆが観光情報センター、2Ｆが図書館的施設になっている。恩納村の人口は1万人。月間１万人ペースの来訪者があり、年間１０万人は行くと思われ、村立としては歴史的な記録を達成するのではないかと思う。

3. 地域とつながる身近な工夫―図書館 100 連発（講演編）

今回やりたいことは、図書館での身近でちょっとした工夫を紹介しつつ、皆さんからも工夫を紹介していただくこと。こういう仕事をしていると公私の区別があまりなくなってしまう。例えば、出先では、とりあえずスマートフォンの地図を起動し、近くの図書館を探して見学する。2009 年ごろから意識して全国の図書館を見て回っている。月の半分は出張で、年間 12 万km以上移動している。あちこちの図書館を見て必ず写真を撮っている。今までにおよそ 1000 館を見学し、目標は 3000 館をクリアすることである。

長野の図書館に関して言うと、局所的にみてかなりいい状態である。Library of the Year でいうと、１県で３館（小布施町、伊那市、塩尻市）の受賞館を出しているのは長野県だけ。それぞれにいい図書館だが、わかりやすくいい図書館だけが、いい図書館ではないと思う。塩尻市は、素晴らしい図書館で、図書館建設のモデルとなる図書館である。しかし、施設的に厳しくても、建て替えられない自治体はほとんど。その中で、ちょっとしたいい工夫をすることは、いくらでもできることだと思う。全体を良くするというのは理想だが、そうするには、新館をつくるタイミングしかない。しかし、今まで新館を造ってきて思うことは、新館建設のドタバタのなかで、全体を良くするのは無理。結局、走りながら考えていくしかなくて、日々日常の中で局所的に小さなことから一つひとつ工夫をしていくこと。それを、極めていくと最終的にはいい図書館になるのではないか。例えば、県立図書館の中で東日本ナンバーワンの秋田県立や有名な鳥取県立も最初からすごい図書館だったわけではない。長年かけて、ようやくそこまで来ているのである。

4. 図書館 100 連発とは？

雑誌「ライブラリー・リソース・ガイド(LRG)」の目玉企画であり（創刊号・第４号・第９号で特集）普通の図書館が日常的に行っている「小さな工夫」「利用者の目線に立った工夫」「ちょっとした業務改善」「さまざまな事業」100 個まとめて紹介する試みである。

ワークショップ

図書館１００連発関東甲信越静編に向けて
講師による信州編２５事例の紹介（わたし）＋研修参加者による事例紹介から７５例（みなさん）⇒１００（わたしたち）

参加者が７グループに分かれ、自館の工夫や今まで見てきた図書館のちょっとした工夫や取り組みを紹介し合い、模造紙に書き出した。その中から講師が取り上げた工夫や試みについて、情報提供者が発表を行った。

図書館１００連発関東甲信越静編の生かし方

1. 図書館総合展での展示（ARG 社ブースを活用）
2. 図書館１００連発４への採録（LRG 第 14 号に掲載の方針）

（ワークショップ発表風景）

図書館１００連発―信州編（講師）

＃1 県立長野図書館：信州　地図で読むふるさとの山
＃2 上田市立上田図書館：大人の社会見学図書館ツアー
＃3 軽井沢町立図書館：来客歓迎の館長室
＃4 諏訪市立信州風樹文庫：レシート芯で作った本立て

＃5 塩尻市立図書館：新着図書をコピーで魅せる。(背表紙コピーを書架風に掲示)
＃6 塩尻市立図書館：マスキングテープでおしゃれに掲示
＃7 伊那市立伊那図書館：地図を大きく味わう(大判地図をエントランスに設置)
＃8 伊那市立伊那図書館：屋外スペースへステップ一つでの誘導
＃9 安曇野市立中央図書館：友好都市の広報誌を配置
＃10 池田町図書館：差込表示板の作家名にふりがな
＃11 原村図書館：子どもの肉筆でモラル啓発
＃12 富士見町図書館：宅配ボランティアとの連携
＃13 下諏訪町立図書館：防犯カメラの設置を告知
＃14 市立岡谷図書館：姉妹都市の資料を収集
＃15 市立岡谷図書館：映像資料を死蔵させない(死蔵に向かいがちな地域の映像資料タイトルの掲出)
＃16 松川村図書館：差込表示板に作家の顔写真とプロフィールを表示
＃17 松川村図書館：貸出中の本も見せる(貸し出されても不在にならない情報提示)
＃18 松川村図書館：広報誌と展示の連携(町報で紹介した資料を展示)
＃19 市立大町図書館：書店売れ筋も紹介
＃20 小谷村図書館：ブックスタートの見本展示
＃21 市立須坂図書館：ランチタイムを試行
＃22 市立須坂図書館：表現の妙「すざかびとの本」(言い方一つで変わって見える地域資料)
＃23 市立須坂図書館：これぞ、レファレンス！(エントランスの野草に注目し名前を紹介)
＃24 市立須坂図書館：公共施設のコストを伝達
＃25 市立須坂図書館：広報誌の表紙を掲示(市(町村)政への重要な貢献)

図書館１００連発―関東甲信越静編(参加者)

- 千葉県立西部図書館：近隣図書館の写真を展示し、図書館ネットワークを PR
- 加藤文太郎記念図書館：閉館時間の BGM に郷土の偉人(加藤文太郎)の歌を流す
- 十日町情報館：日限票の裏面をコメント欄にし、おすすめ本紹介用紙として利用
- 県立長野図書館：貼り紙(掲示物)のフォントを統一
- 千代田区立千代田図書館：雨の日の本の貸出にビニール袋を提供(本を大切にしていることをアピール)
- 山梨県立図書館：サンジョルディーの日の山梨県版「贈りたい本大賞」(地元書店と連携　ボランティアによるイベント実施)
- 千葉県立中央図書館：図書館が載った新聞記事を掲示
- 本の帯を利用して新刊紹介
- 閲覧机に辞典を置く
- 調べもの展示(レファレンスで使用した本の展示　レファレンスの視覚化)

- 県立長野図書館：家族新聞を作り(新聞データベースを利用して家族の誕生日の紙面を印刷し切り貼り編集)
- 身延町立図書館：本の帯の端をしおりとして活用
- 市立大町図書館：オリジナルノートで手作り読書通帳(内容は自分で手書き)を配布

- 南アルプス市立甲西図書館：図書館にあるショッピングカートの利用方法を明示
- 長野市立長野図書館：図書館敷地内で採れた銀杏をプレゼント
- 学校図書館：宿泊学習（修学旅行）先の資料と大きな地図を一緒に展示
- 新宿区立四谷図書館：図書館広報誌で地域情報を紹介　読みたくなる編集（テーマを決め、各担当者で関連記事を作成　対話形式のレファレンス事例紹介）
- 千代田区立千代田図書館：子ども室で託児サービス（月 2 回）
- 県立長野図書館：チラシを置く際に、ゆがまないように中央に折り目を入れる。
- 江戸川区立葛西図書館：区役所などで区内全図書館の紹介パネル展示（アンケートに答えるとオリジナルしおりなどプレゼント）
- 世田谷区立代田図書館：読書検定を行い、全問正解者に図書館キャラクターのブックカバーをプレゼント

など多数

総評

どれも、とてもよいアイディアが出されていたと思う。ぜひこのように、小さな工夫を怠らないようにしていただきたい。もちろん大きな仕掛けをしていくのも大切だが、同時に､図書館は普段からそこにある存在なので､日々の小さな積み重ねがものを言う。そしてぜひ､アイディアを共有していたただきたい。ノウハウを共有することにより、全国的に図書館のレベルが上がる。

いろいろな図書館を見に行った際に、いいものがあったら、取り入れる。また、自分の図書館の取り組みを紹介する。そういった積み重ねをしていってほしい。

今回、図書館の取り組みでもっと紹介したいものもあったが、残念ながら、図書館内の写真撮影が許可されず、紹介できなかったものがある。ノウハウを共有する上で大切なことなので、利用者が映らない範囲での写真撮影をぜひ許可してほしいと思う。

「地域とつながる身近な工夫―図書館１００連発―」下記アドレスから資料にアクセスできます。
http://www.slideshare.net/arg_editor/naganopreflib20151009